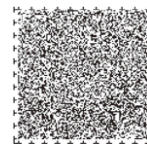
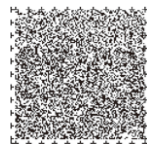




てんかん

脳神経の一部が活発に活動しすぎるために、突然けいれんが起きたり、意識が失ったりする「てんかん発作」が繰り返し起きる脳の病気です。外見からは見えないため、周りの人に理解してもらいにくい障がいです。子どもから高齢者まで、年代を問わず誰にでも起こる可能性があります。日本には100人に1人、約100万人のてんかん患者がいるとされる、身近な病気です。てんかんは現在の医療で、7・8割の方は薬や外科治療によって発作を抑制することができ、日常生活に差し支えなく生活することができています。

しゅつてん とつとりけん こうえきしやだんほうじん にほん きょうかいとつりけんし ぶさくせい
 出典：鳥取県・公益社団法人日本てんかん協会鳥取県支部作成
 『てんかんの正しい理解のために「てんかん」についてのQ&A』



配慮

こんなサポートがうれしい！

「てんかん」について正しく理解してください。

決して珍しい病気ではありませんが、てんかんを理由にサービス利用を断られたり、就職の際や職場において不当な扱いをされた経験のある方も少なくありません。てんかんを正しく理解し、過剰に活動を制限せず、さまざまな機会を摘み取ることにないように配慮してください。

発作のときは、体を押さえたりしないでください。

発作が起きているときは、名前を呼んだり、体を押さえたり、揺さぶったりしてはいけません。「舌をかまないように」と、口の中に指、タオルなどを入れてはいけません。メモなどで発作時の症状を記録しておき、発作の症状や起きやすい時間帯を理解しておくことも大切です。

発作が起きたら、まずはあわてず見守ってください。

発作に遭遇した場合はお湯や鋭利なものなど、体に触れると危険なものは遠ざけて、無理に体を動かさず、発作が終わるまで静かに見守りましょう。意識が回復しないのに次の発作が連続して起きる、発作が5分以上続く、といったときには、救急車を呼んでください。

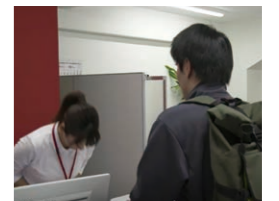
疲れすぎたり、寝不足が続くと発作が起きやすくなります。

薬は絶対に飲み忘れてはいけません。テレビゲームなどの強い光、寝不足、疲れ、発熱、飲酒、ストレスなどで発作が誘発されることがあります。健康を保つために、より良い生活習慣を身につけることが大切とされています。周りの人は配慮をお願いします。

事例

たとえば、こんなことがあります。

現在の治療で、7・8割の方のてんかん発作が抑制されています。子どものとき「てんかん発作」をよく起こしていた方も、大人になって治療と薬でほぼ発作はおさまり、差し支えなく生活している方も少なくありません。それでも、エステやスポーツクラブの利用などを断られるケースがあります。正しく理解をしてください。



スポーツクラブへの入会を断られるケースもあります

※ご相談・お問い合わせ先は、障がい福祉関係団体一覧(P46) 又は相談機関一覧(P48)をご覧ください。